

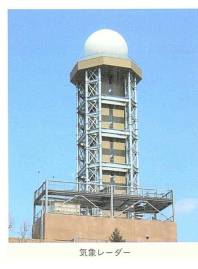
お話の内容

はじめ

- ・ 話題を提示し、第一の問いについて述べている。

① 科学技術の進歩。

- ・ 二〇〇八年現在、日本では、約千三百カ所にアメダスの観測装置が設けられ、その地点の降水量を常時測定しています。

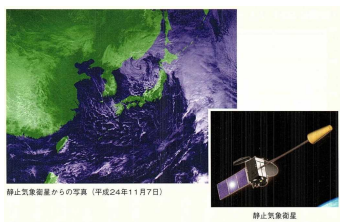


- ・ 全国二十か所に設置されている気象レーダーは、半径約三百キロメートル内の雨雲の分布を電波で調べています。

- ・ 海洋での観測、気球や人工衛星による上空での観測が時間を決めて行われています。

② 国際的な協力の実現。

- ・ 日本の天気の変化には、遠くはなれた陸地や海上の状態がえいきょうします。そのため、地球全体の気候の様子を知る必要があります。こえた取り組みが不可欠です。
- ・ 情報を共有することによって、天気



お話の内容

中

・「はじめ」にしめた問いを受けた第二の問いと筆者の考える答えを述べている。

③ 天気予報は百パーセント的中するのがむずかしい理由。

・ 突発的な天気の変化が挙げられます。短い時間の非常に激しい雨は、積乱雲は数十分のうちに急速に成長するため、いつ激しい雨がふりだすのかを予想するのはとてもむずかしいのです。

・ また、局地的な天気の変化も予想がむずかしいものです。日本は、四方を海に囲まれていて、さまざまな風がふきます。山が多く、地形の形に富んでいます。そのため、雲の動きや空気の流れが複雑で、山を一つこえただけで天気がことなることが、しばしばあります。

④ 天気を予想する手立てはないか。

・ 実際に自分で空を見たり、風を感じたりすることです。

・ 天気に関することわざが有効な場合もあります。



山をはさんで、向こう側とこちら側で天気がガラガラ（筆者撮影）

『天気^{はなし}を予想^{ないよう}する』

武田^{たけだ}康男^{やすお}

お話の内容

終わり

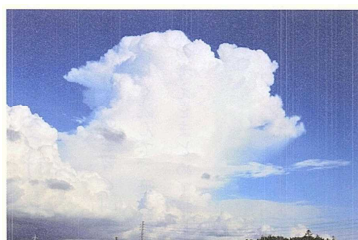
・「はじめ」「なか」の内容を
まとめ、筆者の主張を述べて
いる。

・的中率が上がっても、「今、ここ」で
天気の変化を予想し、次の行動を判断
するのは、それぞれの場所にいる一人
一人なのです。

・科学的な天気予報を一つの有効な情報
として活用しながら、自分で天気に関
する知識をもち、自身で空を見、風
を感じることを大切にしたいもので
す。



富士山の頂上にかかったかさ雲



急速に発達し、はげしい雨をふらせる積乱雲



天気が悪くなっていくことを知らせるうろこ雲